

日本触媒・水源の森（赤西渓谷・兵庫県宍粟市）における 植林活動のとりくみと川の生物調査

小笹 康男, 福田 正 (NPO 法人 ひょうご森の倶楽部),
重安 一 (株式会社 日本触媒), 角 絢香, 片野 泉 (兵庫県立大学 環境人間学部)

「日本触媒・水源の森」とは

日本触媒・水源の森は、掛保川の上流域に位置する宍粟市赤西渓谷の水源涵養林です。一見、天然林にも見える、ミズナラやケヤキなどの落葉広葉樹がひろがる美しい森があり、それを縫うように赤西川が流れています。草花や昆虫をはじめ、鹿・猪・ウサギなどの生息の痕跡なども見られる、生物多様性を保つ豊かな森といえます。

赤西の森は、昔から多くの人たちに利用されるとともに、大切に守られてきました。昔から木地師・タタラ師などの専門家集団は、一定の利用の後は森を回復するために他の場所に移るなどして、節度ある利用方法が行われてきました。また国有林として国に移管された後も、スギ・ヒノキの植林、木材生産を行う一方、広葉樹の森は大切に保全されてきました。更に、地元・原集落では都会の人たちと交流して広葉樹を植え、針広混交林をつくる努力を重ねています。その他にも、人工林の間伐、遊歩道の整備、森の観察会、水生生物調査が行われています。

赤西川と生物

赤西川は、波佐利山や赤西山などの1000mをこえる山々と森によって、豊かな流量を一定に保っています（写真1）。

その流水は、森の豊かな植生によって涵養されているため、多少の降雨でも混濁することがありません。また、川岸の岩や巨礫は苔むし、安定した流況を物語っています。林道沿いの「しみ



写真1 赤西川と溪畔林

出し」にはチョウが集まり、小さな水たまりを作ると、カエルの産卵がみられます。森からしみ出した岩盤上の「したたり」にはカワトビケラ科の巣が観察できます（写真2）。このように、赤西川では、水生生物の多様な生息環境が保たれています。

たとえば、子どもたちの観察会では、オオヤマカワゲラ、クラカケカワゲラなどの大型のカワゲラ類、ヒゲナガカワトビケラ、ヤマトビケラなどのトビケラ類、多様なカゲロウ、ガガンボ、ヒラタドロムシ、ホタル類（ゲンジボタル以外に、森林性のクロマドボタル）、ハコネサンショウウオやアカハライモリ等の両生類や、ヨシノボリ、アブラハヤ属等の魚類など、様々な生物を観察しています（写真3）。



写真2 カワトビケラ科の巣

私達のとりにくみ、これまでとこれから

日本触媒では年3回の森林整備や自然観察会をおこなっています。子どもが自然とふれあう機会として、木工細工の製作や川の生き物調査もおこなっています。夏の活動は、子どもたちも多く参加して、楽しいものになっています(写真4)。これらの活動は、兵庫森林管理署、人と自然の博物館、兵庫県森林林業技術センターの皆様にもご指導ご協力をいただいています。今後も、地域社会や各団体の皆様とより深い関係を築き、活動の輪をさらに広げていきたいと考えています。



写真3 赤西川で見られる生物



写真4 夏の活動の様子